

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	理念が新しく生まれ変わったばかりなので、これから家族・地域の方に理解していただけるように左記の方法等でもっと発信していく
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	推進会議を定期的開催し、介護相談日を情報誌に記載し発信したり、認知症の啓発活動の一つとして、認知症サポーター講座を同事業者や市と協働して開催するよう取り組んでいる		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、理解を求めている。前回の評価を生かして、具体的な改善を時間をかけて職員全員で取り組んでいった		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの運営状況等を報告し、意見を聞き話し合いを行っている。また、推進会議には職員も交代で出席し、話し合いに参加している		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会議以外にも、市の担当の方は時として郵送書類を当ホームに持ってきてくださったりしている。また、こちらからも、なるべく提出書類等を手で持っていき、種々の相談をしたりしてサービスの向上に努めている。また、サポーター講座等においても、協働で行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な人には以前支援等をしてきた(権利擁護事業)。また、成年後見制度を理解し利用されている方もいる。	○	職員は学ぶ機会を設けていないので勉強会を持つようにする
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律については学ぶ機会を設けていないが、虐待に関して見過ごされることのないように注意を払っている	○	高齢者虐待防止関連法についての勉強会を設けるようにする

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解・納得を図っている	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員が定期的に訪問されており、気がついた事やすくい上げていただいたもの、また、日常の会話の中より聞き取り、それらをカンファレンスやミーティングなどで話し合いを持ち、反映されるように努力している	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議の場や、家族が来所された時に報告している。また、情報誌に生活の様子や健康状況等を個々に知らせている。場合によっては電話連絡も行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、家族の来所時にて会話を持ち機会を設け、運営に反映させている	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングや日々の申し送りにて意見を聞く機会を設けている。また、ミーティングでは、職員個々に、議題を提案してもらっている。その他、個別的にも行っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務の調整は行っている	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は理解しており、働きやすい職場にする努力はしてもらっている。また、異動は現在の所なく、職員も定着している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は特に行っていないが、管理者がそれを担っており、研修の機会等を設けている。</p>	<p>○</p> <p>現在、ホーム内(もしくは社内)での勉強会は行っていないので計画を立てて開催する予定</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者は行っていないが、管理者がそれを担っている。群馬県地域密着型サービス連絡協議会の活動を通して、横のつながりを持つように交流をし、ネットワークづくりをしている。また、職員はレベルアップ研修により、他のグループホームへ実習研修に行き、サービスや個々の質の向上にも努めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は管理者に対して相談等にはのってもらい、職員に対しては管理者が、それらを担っており、仕事面でも個々の個性を活かしてもらえるようにしたり、愚痴や相談にもものっている。定期的に親睦会を設けてストレス軽減につなげている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は管理者に対しては把握しており、職員に対しては、管理者が把握して運営者に把握してもらっている。賃金面では難しいの現実であるが、少しでも向上心を持って働けるように、運営者と管理者との間で労働条件の改善に向け話し合いは持っている。ただ、職員間のコミュニケーションが大切なので出来る努力はしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前には必ず家族の方だけではなく、本人にも会い、生活状況を把握すると同時に、現在の本人の状態等もきちんと把握するよう努めている</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前には、家族の方ときちんと話しをして、種々の事柄を聴取するよう努めている。必要に応じて、こちらから家族の方の不安等を聞き出せるような会話にも努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、きちんと話しを聞き、その方の状況等を見極めながら支援・対応を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り、入居前には本人も一緒に来所してもらい見学がてら入居されている方と過ごす機会を設けたり、入居後も、新しい場所や他の入居者様・職員とも馴染めるように努力している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	持ちつ持たれつの関係であるよう日常生活をしている。一方的な介護からは信頼関係は築きにくいものであり、我々の理念である喜びや悲しみを共有できるように介護にあたっている。しかしながら、一歩間違えれば一方的な介護に陥りやすいので、修正を繰り返しながら行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態等をきちんと伝え、職員だけではなく、時として家族の方にも協力してもらいながら支援をしている。新しい理念の中にも掲げている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出等の支援や、訪問にて家族と過ごす機会を設けてもらったり、施設での月の行事や、一泊旅行等の参加を呼びかけ、一緒に過ごす時間持ってもらい、良い関係が保てるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出、外泊等を通して関係が途切れないように支援したり、また、馴染みの場所への外出の支援にも努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	特に孤立しがちな方には、職員が間に入り関われるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後に、必要と思われる方には継続的な関わりを持っていた(情報誌を配布しがてら関係の維持)。また、退居時に、家族の方にはいつでも相談を受ける事の話しはしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から直接希望や意向を聞くのが難しい方には、何気ない会話や関わりの中から、真に受け止めその人の、気持ちを理解するように心がけ、それをケアにつなげるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には家族の方等から話しを聞き、出来る限りの情報の把握に努めている。面会に来られた折に、会話より知る事もあり、また、把握しきれていない情報を聞いたりして入居後も情報の収集は必要に応じて行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その方の、その時の心身の状態によっても生活は変わってくるので、日常的にケアの中で行っていると同時に、その方の、出来る事を引き出せるよう総合的な把握にも努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを実施しており、本人との関わりの中から課題(希望等)を見つけ、その人らしい生活が出来るように利用者本位の計画を作成している。また、家族の方とは、会話の中から拾い上げ反映するようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行うが、心身の状態等が大きく変わった時などは、必要に応じて計画のたて直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子を記録しており、心身の状態等、普段と違う事があれば、記録の中に印を付けて、より職員が共有出来るようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別的な対応を行ったり、状況に応じた柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近くにある多目的ホール(公園付きの)を日々の散歩に利用したり、囲碁の好きな方には、囲碁ボランティアをお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問リハビリを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特に行っていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの方が、協力病院がこれまでのかかりつけ医である為、そのまま継続しており、定期的な受診は、当施設で支援している為、かかりつけ医との関係も築いている。24時間、相談等も出来るようになっている。また、遠方の病院には、家族の協力の下、受診してもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>現在、家族等に重度化した場合や終末期のあり方について、話し合いを持っている段階である。引き続き全員の方に聴取していく。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねないような言葉掛けや対応をしないように心がけているが、良くない対応があった時には再認識してもらったり、会議等で話しをしたりしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一方的な対応にならないように配慮したり、言葉の理解の程度に合わせた対応や、言葉で表現出来ない方には、関わりの中から読み取るように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で日々の生活が進まないようにしており、その方のペースを大切にしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしい身だしなみやおしゃれの支援をしている。頭髪が長い方は長く。理美容も皆さんそれぞれである。洋服も、選べない方には、その方の好みの色や形を尊重している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	力量に応じて一緒に準備をしたり、食事も職員と一緒に摂るようにして楽しい時間を過ごしている。後片付けも、一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒の好きな人には夕食時に晩酌している。また、夕食後、後片付け後に、皆で好きな物を飲みながら雑談をして、過ごしている。また、行事ではアルコールも出して飲んでもらったりしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来るだけオムツせず快適に過ごせるよう排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握して、その方に合わせた誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日入浴を行っている。夕食前に入る人、夕食後に入る方もおり、ゆったりと気持ち良く入れるように、時としてタイミングを見計らいながら支援している。また、体調を考え、希望に応じて入浴される方もいる。その方に合わせた入浴方法を取っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	毎日、日中は散歩に出掛け日中はなるべく活動的に過ごして、安眠につなげている。その方に合わせて昼寝をしてもらったり、夜も特に就寝時間はなく、その方に合わせて就寝支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人に合った役割や楽しみごとの支援をしている。外食・スポーツ観戦・囲碁・美術展や実家への帰宅等、個別に支援を行い、その方の楽しみ事やストレスの解消につなげている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方ではあるが、お金を持ってもらっている。小額ではあるが、買いたいものを購入されている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩に出ている。その方に合わせた距離を散歩しており、午前の方や午後の方もいる。また、出入りは自由な為、一人で散歩に出掛けられる方もいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	スポーツ観戦や、外食等の支援を行っている。家族と外出する機会を設けてもらったり、年1回、一泊旅行に出掛け、交流もはかっている。また、毎月全員で日帰り出掛けしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にて、電話での仲介を行ったりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	制限のある訪問時間は設けていなく、気軽にいつでも来所出来る雰囲気作りを行っている。家族の方も一緒に昼食を摂ったりもしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。しかし、拘束と思われるような態度や言葉等があれば、注意を促したり、共有の認識として、会議等で話しをして再認識してもらっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は開放的にしており鍵を掛けないケアを実践している。徘徊者には常に見守りや言葉掛けを行い、時として一緒に出掛けたりしている。また、一人で出掛ける方もいるので、いつでも好きに出来る環境を作っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中の記録は共有スペースにて行い、常に所在や様子等の把握をしている。夜間は、定期的、必要に応じて随時確認は行っており、すぐに対応できる場所にて夜間勤務をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物を回りに置かないのではなく、危険なものは目のつかない所や手の届かないところに置くように配慮している。包丁は片付ける場所がきちんと決まっており、使用しない時には、きちんと片付けておく。また、物により管理の方法は違う。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止の為、その方に応じた取り組みを行っている。転倒の可能性のある方には、声かけする事による認識、段差への認識、また、行方不明の可能性のある方に対しては、ベル等の設置・・・種々話し合いを持ちながら危険な箇所の認識・検討等も行い防止に取り組んでいる。しかし、事故につながった時には、報告書の作成・原因と対策を明らかにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の行う普通救命講習に年1～2回は参加して、緊急時にも対応出来るようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導のもと、避難訓練・通報訓練・消火訓練を行っている。また、その際には、地域の方にも協力参加していただいている。夜間帯・日中の火災避難や地震による火災避難訓練も実施している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	鍵掛けは一切していない為、種々のリスクは考えられるが、抑圧感のない暮らし、ある程度の自由な暮らしを大切にす為にも、特に入居時にはきちんと説明等を行い、理解に努めている。また、心身の状況におけるリスクについてもその都度説明し、対応策を話している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りによって、また、職員同士、日常的に情報を共有しあい、顔色や表情等の観察は常に行っている。様子がおかしい時にはバイタルチェックを行いながら、様子観察を怠らず、必要に応じて、管理者への報告と指示、医療機関への受診を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、用途等がわかるように個人記録簿に入れてあり、職員が把握しやすいようにしている。また、薬の変更があった時には、情報を共有して、記録に状態の変化があれば記載している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日中はなるべく散歩に出掛け活発に過ごしてもらっている。また飲み物での工夫や食物繊維の多い食材での食事作り、朝食後のトイレへの支援等を行っている。また、その方の排便リズムをつかみ、落ち着いた環境でのトイレへの支援も行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に行っている方、朝晩2回の方、状態に応じた口腔ケアをしており、その方に応じて、声かけだけの人、介助が必要な人・・・それぞれの方法で行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に応じた量を食事量としている。個人記録に食した量を記入している。水分不足にならないように、食事時では一杯のみではなくお茶をつぐようにしたり、飲みの悪い人には好みの飲み物にて摂取の確保をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	新型インフルエンザ対策として、玄関先にうがい薬・手指の消毒が出来るように設置しており、面会者や職員の出勤時、入室前に行ってもらっている。また、外出後に手洗い・うがいを行っている。その他、インフルエンザ予防接種を入居様・職員共々行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾やまな板の日常的な除菌を行い、食器乾燥機にて食器の除菌衛生にも努めている。食材は地元商店街より新鮮な食材を購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花を植えたり、小さいながらもきゅうりやナスなどの家庭菜園をしている。玄関は開放して出入りしやすくしており、古い家屋で馴染みやすくなっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔ながらの古い家屋であり、採光は決して明るいものではないが、それが入居者様には居心地の良いものとなっている。台所も居間とつながっており、自然に包丁の音や匂いが自然な形で取り入れられる。冬はコタツに入り、生活感が漂っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	台所・居間・廊下と自由に行けるようになっており開放的である。好きな所で過ごせるようオープンになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んでもらうようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日常的に窓等を開け空気の通りを良くしている。また、夏は暑く、冬は寒い、昔ながらの生活をしている。暑さ、寒さに応じて衣服の調節をこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて手すりの設置をしている。階段には滑り止めを設置しているが、古い家屋の為、手すりではなく、柱や物等が手すり代わりになったりしている。また、段差解消も必要に応じて行っている。バリアフリーの家屋ではないが、種々の工夫は行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ表示の工夫をしたり、本人の状況に合わせた環境整備を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭が狭いが、花や野菜等を栽培して、水やりや収穫を楽しんでもらったりしている。また、椅子・テーブルを設置して日向ぼっこ等出着るようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開所当初より、施設で過ごすという考えではなく、普通の家で一緒に生活を共にし、地域の方々とも普通の関係にてお付き合いをするというように行ってきた。その為、隣保班に加入するだけでなく、必要な行事の参加や葬祭への手伝いもしている。日常的に外に出掛けて、季節感を味わうと同時に、地域の方々との交流も大切に行っている。町の中心部に位置している当施設は商店街が目の前であり、食材の買い物も入居者様と一緒に散歩がてら歩いて行っている。その為もあってか、徘徊されている方への対応も協力体制が得られる場面がある。しかし、認知症の理解はまだまだと考えるが、毎月情報誌を地域の方々に、訪問して配布したり、認知症への理解等を含め、独自の講座を開いてきたり、昨年からは、市と他事業者と共に、認知症のサポーター講座を開催し、より地域の方々の理解が深まるよう活動している。しかし、決して背伸びしたものにならないよう自然な形で行っている。毎年盛大に開催されている、伝統ある鬼石夏祭りにも練習が始まる頃より一緒に参加させていただいている。当施設は、その昔、割烹料理屋さんだった所を改修しており、家の中は”田舎の家”を感じさせるようなものとなっている。殆どが畳であり、居間には冬になるとコタツが入り、落ち着ける環境である。採光は決して明るいものではないが、家で過ごしているような趣である。ハードの部分では決して使いやすいものではないが、それらを職員皆で創意工夫しながら手作りで行っているのも特徴の一つである。